

<中山間地での雪結晶観察>

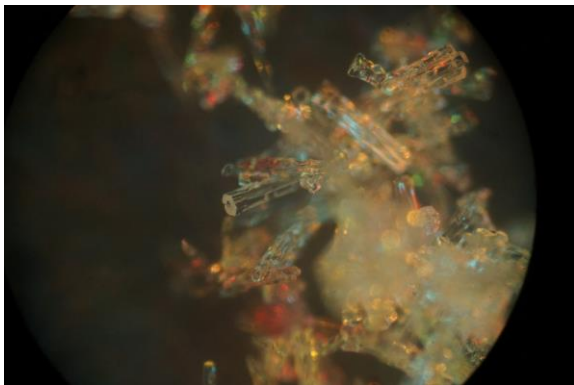
夜中にごくわずか雪が降り、車のボディが白くなっていました。朝、7時、かき氷に塩を混ぜてマイナス20度の低温を作り、その上に黒のフェルトを置いて冷やし、車の上の雪に触れさせてフェルトに雪を付着させます。それを再び冷却装置にもどして顕微鏡観察しました。数時間前に降ったものですが、十分雪の結晶を楽しむことができます。形は角柱(さや状になっている)、樹枝状、広幅六花など色々です。樹枝状に砲弾型が付着したもの(最後の写真)もあります。このような方法を用いれば、中山間地の学校の児童・生徒に自然雪の結晶観察を体験させることができます。当地、今朝7時の気温はマイナス0.7度でした。



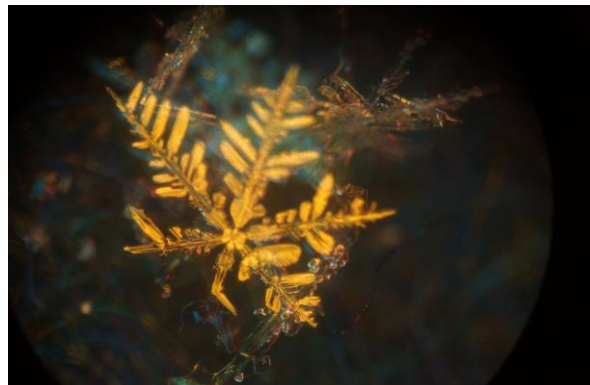
夜中、自動車の上におわずかな雪



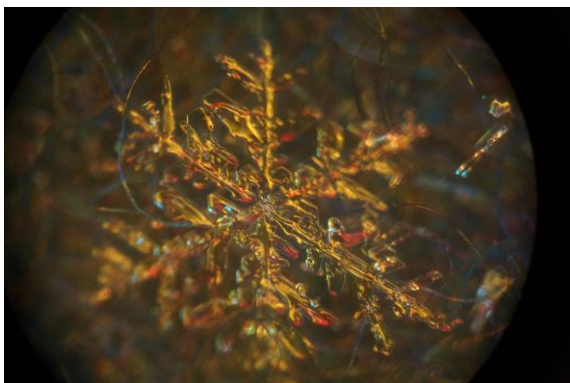
雪を付着させた黒のフェルト



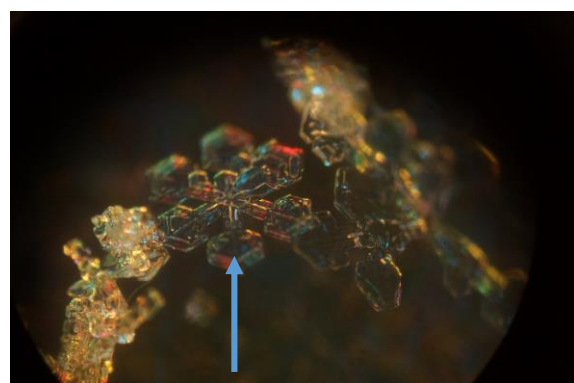
角柱型、雪の結晶



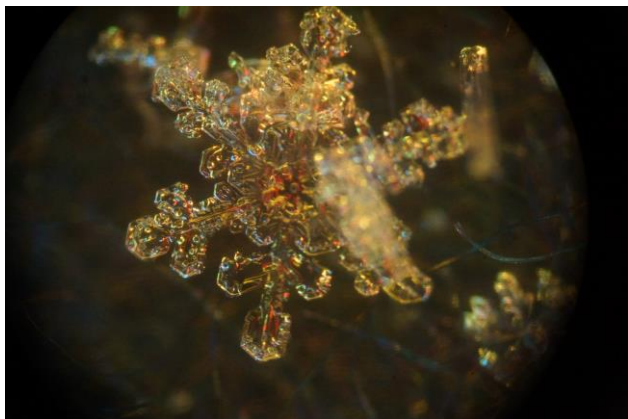
樹枝状型、雪の結晶 (枝の一部損傷)



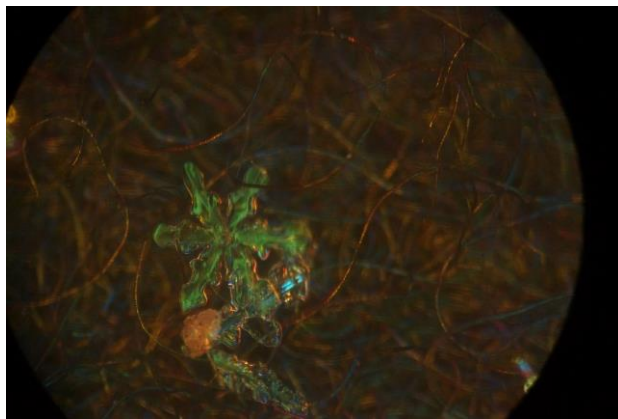
樹枝状型、雪の結晶 (昇華によりわずか変化)



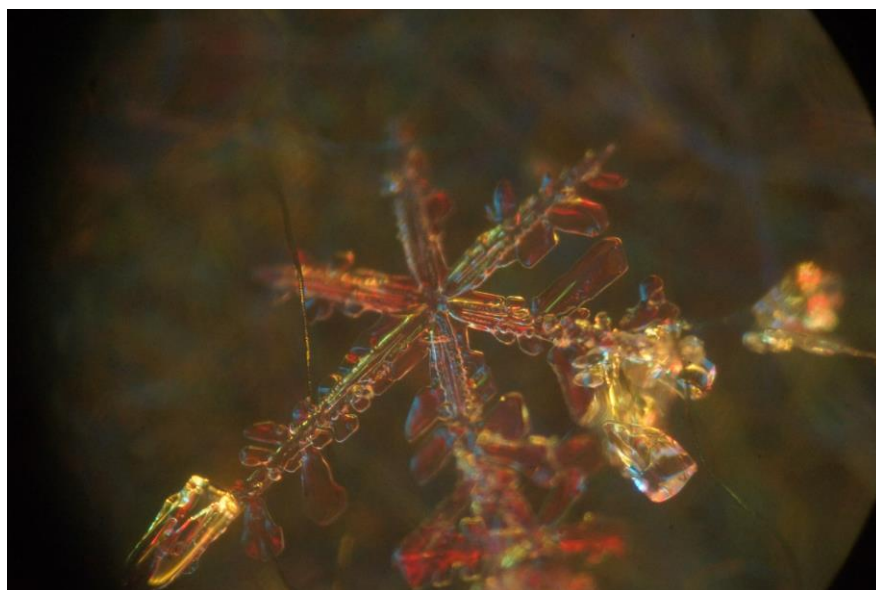
広幅六花、雪の結晶



広幅六花、雪の結晶



広幅六花、雪の結晶



樹枝状型、雪の結晶（砲弾型結晶が付着）